

令和 5 (2023) 年度
小金井市芸術文化振興計画推進事業
「小金井アートフル・アクション！」
事業報告書

令和 6 年 3 月

委託者 小金井市

受託者 特定非営利活動法人アートフル・アクション

令和5(2023)年度
小金井市芸術文化振興計画推進事業
小金井アートフル・アクション！

事業報告書目次

- 1 令和5(2023)年度小金井アートフル・アクション！の進め方・・・3
- 2 地域に開かれた芸術文化の拠点と交流の機会を提供する・・・5
多様な視点に気づき、表現に繋げるワークショップ「タズネル」
- 3 市民が芸術文化活動に参加する新たな機会をつくる・・・13
0,1歳児と保護者のための芸術文化体験
ワークショップ「からだのことばでもっとおしゃべりしよう」
ベイビーミニミニシアター「あしあとのおと」
- 4 地域内外の多くの人々が参加できる実践の場をつくる・・・27
えいちゃんくらぶ

1 令和 5 年度（2023） 小金井アートフル・ アクション!の進め方

小金井市芸術文化振興計画（事業名 小金井アートフル・アクション! 以下、本事業）は、『誰もが芸術文化を楽しめるまちへ』を目標に掲げ、平成 21 年に施行され、第 1 次計画小金井市芸術文化振興計画が第 1 ～ 3 期にわたり、令和 2（2020）年度まで実施された。

第 1 次の計画を受け継ぎ、『みんなで誰もが芸術文化を楽しめるまちへ』を基本理念として掲げ、第 2 次小金井市芸術文化振興計画が実施されることとなった。本計画は令和 3（2021）年度から令和 12 年（2030）年度までの 10 年間に実施される。

本計画は、大きく 2 つに分け、基本施策（事業）のうち下記を主として取り組む。

前期：令和 3（2021）年度～令和 7（2025）年度

1. 地域に開かれた芸術文化の拠点と交流の機会を提供する
2. 市民が芸術文化活動に参加する新たな機会をつくる
3. 地域内外の多くの人々が参加できる実践の場をつくる

後期：令和 8（2026）年度～令和 12（2030）年度

4. 新たに地域で芸術文化活動を担っていく人材の育成を行う
5. 芸術文化活動を行う市民を支える基盤を整備する
6. 市民が芸術文化活動そのものへの理解を促すきっかけを提供する

第二期の計画 3 年目となる本年度は、これまでの継続的に行なってきた事業のほか、「タズネル」と題するワークショップを実施した。タズネルでは、市民がそれぞれの興味関心、課題認識、面白さなどを持って市内を探索し、その過程を参加者と共有し、ネットワークや新しい場の形成につなげることを意図した。市立の公共施設だけでなく、市民のネットワーク形成やそれに基づいて必要な活動を行うことができる場、関係性を「拠点」としてとらえることで、実効性とリアリティある活動形成が可能となりつつある。

今年度は、計画の理念を実現するために 3 つの推進事業のうち、以下の事業を実施した。

事業 1 タズネル

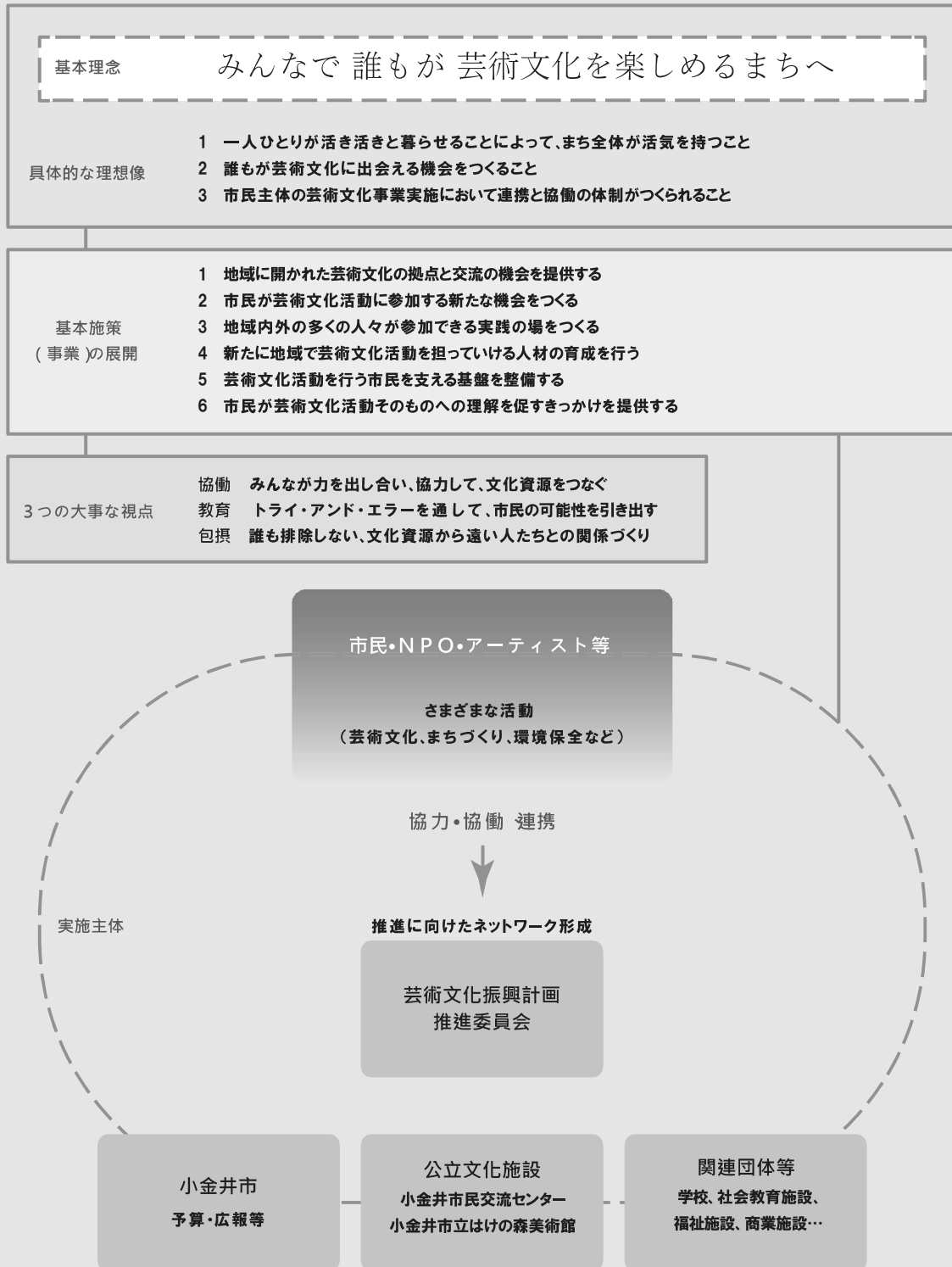
事業 2 0,1 歳児と保護者のための芸術文化体験

ワークショップ「からだのことばでもっとおしゃべりしよう」

ベイビーミニミニシアター「あしあとのおと」

事業 3 えいちゃんくらぶ+えいちゃんふえす

第2次小金井市芸術文化振興計画 全体図



2 地域に開かれた 芸術文化の拠点と 交流の機会を 提供する

タズネル

本プログラムでは、劇作家、演出家の中原和樹さんをゲスト講師として迎え、演劇的手法を用いながら、参加した市民がそれぞれの関心に基づき、その人ならではの、の既成の方法論にとらわれないリサーチを市内で展開した。その結果、市内の公共施設はもとより、参加者のそれぞれの関心やそれぞれの人が持っている人的ネットワーク、経験などのレイヤーを重ね、新しい出会いや関係性が生まれた。公共施設の利用に留まらず、市民の主体的な活動による拠点が生まれている点は注目に値する。

1 実施概要

実施期間：令和5年10月～令和6年1月

主な履行場所：

NPO 法人東京学芸大こども未来研究所 Codolabo studio

KOGANEI ART SPOT シャトー 2F

2 事業趣旨（目的）

コロナ禍を経た影響等もあり、市民の皆さんの暮らし、従来のコミュニティは様々な変化を余儀なくされた。「みんなで、誰もが芸術文化を楽しめるまちへ」の実現に向け、いま一度新しい眼差しのもと市民・行政・実施団体の協働で取り組むことが必要である。

- ・まち全体が活気づくこと
- ・誰もが芸術文化に出会える機会を作ること
- ・事業実施において連携と協働の体制が作られること

そのために、出会いや対話、何かを試みるための“状況”を作る事で、あらためて市民の皆さんの暮らしに触れ、新たな出会いや出会い直しの機会を設けることは重要である。

この街で暮らす喜び、気づき、あるいは困りごとなどを通じ、今後のこの街での暮らしのビジョンを語り合い、互いに働きかけあう場を作ることが目的に、“多様な視点に気づき、表現に繋げるワークショップ”「タズネル」を実施し、講師には、演出家の中原和樹さんを招いた。

ワークショップでは、演劇的な観点を取り入れることで、一方的な講師と生徒の関係ではなく、物事を多面的に見る、他者の立場を想像する、成り代わってみる、コミュニケーションが困難な場合の迂回路の見出し方など参加者同士、参加者と講師、事務局が互いに創発的な状況を生み出した。さらに、今回の経験によって生

み出されたネットワークにより市民の皆さんの活動の機会や拠点が拡張し、それぞれの場で活動の主体となること、支え合うこと、結果として、ネットワークをより育むことにつながるよう企図された。

3 講師

中原 和樹さん

演出家・劇作家・舞台監督・アクティングコーチとしての顔を持ち、多種多様な活動を同時に進めている。生演奏の音楽と芝居との融合、現代美術・舞踊・舞踏・他ジャンルとクロスオーバーするような舞台作品製作を続け、既存の枠組みに囚われない表現を創作する。

作品創作に於いては、リアリズム演劇の方法論を引用しながら、人間の観察と心理学の応用から真実の演技を導く方法を模索し、俳優がいか「振る舞う」かではなく、いかにそこに「存在するか」を突き詰める。

「喪失感」を自身の根源をなすテーマとし、人間と人間、人間と宇宙、人間と自然といった多様な関係性の中で、「私は何を喪失し、何に魂の尻尾を掴まれているのか」という問いを追求し続ける。

作品創作の中で、日本人が古来大切にしてきた環境・感覚・感性と、記憶・原風景という繋がりが、その問いに関わることに気付き、求する。そのアンバランスさが持つ儚さと懐かしさを喪失感と共に混ぜ合わせることで、新たな作品創作を行おうと試み続けている。

4 開催状況

①開催場所、参加者数は以下の通りである。

- 第1回 10月9日(月) Codolabo studio 参加者13名／取材1名
- 第2回 10月18日(水) Codolabo studio 参加者8名／
- 第3回 11月1日(水) Codolabo studio 参加者9名／取材1名
- 第4回 11月23日(木) Codolabo studio 参加者8名／取材1名／市役所1名
- 第5回 12月13日(水) 15:00～シャトー 2F 参加者4名／取材1名
- 第6回 〃 18:30～シャトー 2F 参加者7名／取材1名／交流ゲスト1名
- 第7回 12月27日(水) Codolabo studio 参加者9名／交流ゲスト3名／研究見学1名
- 第8回 1月13日(土) Codolabo studio 参加者7名
- 第9回 1月24日(水) Codolabo studio 参加者6名／
- 第10回 1月31日(水) Codolabo studio 参加者10名／市役所4名

②実施内容

実施内容は以下の通りである。

参加者が自身の問いと向き合いながら自分自身でテーマを探し、日常の中でリサーチや自主活動を行い、そ

のプロセスを会場にて講師、参加者と共有した。それらについて語り合うことで互いを知り、信頼関係を築き、グループワークを行い、まちを見る視点に働きかけあった。

参加者の自発性と即興性を重視したことで市民が主体となった新たな活動の芽生えに繋がった。ワークショップにて取り組んだ一部活動は市内小学校や公民館でのイベント参加にも広がり、市民活動のきっかけの場となった。

連携と協働については、街の中に接続点を増やすため、NPO 法人東京学芸大こども未来研究所の会場協力を得てシャトー小金井にて実施。大学関係者とも交流の機会を作った。また、コミュニティ文化課、教育委員会からも市職員が見学参加した事で市民との交流機会も生まれ、参加者のタズネル WS 外における主体的な市民活動の促進や、市内文化資源への理解にも繋がったことは成果といえる。

③参加者の主な取り組みテーマ：

参加者は、講師の中原さんの助言によって、持ち寄った興味関心を展開させた。途中、参加者同士の意見交換や情報交換などを経て、新しい展開が見られた。

- ・市内の縄文時代像を調べてオリジナルボードゲームを制作
- ・市境をなぞり、自転車で一周。その過程での人との出会いや発見
- ・以前交流のあった市内在住の外国人の方を再び訪ね、写真と生成 AI を駆使して思いを重ねた画像の制作
- ・市民活動の歴史について
- ・市内の水源、地形的要因

5 参加者数

参加申し込み人数：12 名／交流ゲスト、見学：10 名

6 広報宣伝活動報告

市報 9 月 15 日号／アートフル・アクション HP ／市内チラシ配布

7 参加者の声

- ・目的地に何があるかよりも、そこにたどり着くまでの過程に面白さがある。
- ・寄り道、回り道などの即興性からうまれる意外な展開、それに伴う心の動きに着目。
- ・目的を緩く設定する事で見えてくること多数。
- ・想定はしつつも「まずは行ってみよう、やってみよう」と失敗を恐れないトライ・アンド・エラーの試み。
- ・つかみどころが無くて、最初はどんな WS だろう？と思っていたが、多様性に満ちていて、普段の行動範囲で

は知り合えない人との出会いの場だった。

- ・ここで出会った様々な出会いから、色々なところに積極的に行ったりして、巻き込まれるように楽しめた。
- ・タズネルに参加したことで、普段なにげなく見過ごしていたことに気がつくことができた。“再発見”がキーワード。

ワークショップの様子。タズネルとはなにか？なにをタズネたいか？について話し合う。



地図を眺めていたら、コガネイに謎の飛び地を発見！



縄文をテーマにしたチームがリサーチ報告。市内で発掘された漆塗りの櫛を粘土で作ってみた。





市内フィールドワーク中、たまたま参加者のお店の前を通る。上着を忘れた講師があまりの寒さにマントを借りる。日頃の関係性と偶然の出会いに救われる体験を共有。



公園の隅に地下水位点検口を発見し盛り上がる一同。探究心さえあればマンホールの穴でも楽しめるという気づき。



東京学芸大学・名誉教授も専門家ゲストとして交流参加。宗教や死生観など哲学的な話が深まる。「皆さん生き生きとしていて、これだけで幸せそう。おそらく目的なんて無いほうが楽しいのかもしれない。本当に良かった」との感想コメント。



振り返り回では、それぞれがタズネで感じたことをホワイトボードに自由に書き出した。



最終回、メンバーとともに行政関係者も見学参加。巻き込み型WSのため見てのだけとはならず、市民との直接交流の機会に発展した。



市域の縄文時代をテーマに参加者が制作したオリジナルすごろく。講師、参加者ともに遊ぶ。



最終回には、短期凝縮型ワークショップならではの一体感が生まれた。

3 市民が芸術文化活動 に参加する 新たな機会をつくる

0,1 歳児と保護者のための芸術文化体験

「からだのことばでもっとおしゃべりしよう」は、ベイベーシアターと呼ばれる乳幼児のための舞台芸術に基づいてつくられたワークショップである。ベイベーシアターは、1990 年代にヨーロッパで起こった舞台芸術の一分野で、安全で安定した空間の中で、乳幼児の観る力、聴く力、感じる力に働きかけ、その力を共に観る大人たちと分かち合う、乳幼児が主役、観客でもある特別なパフォーマンスといわれる。乳幼児期は、決して何もわからない訳ではなく、芸術文化による豊かな働きかけにより、健康で自由な精神が育成されることはレッジョエ・エミリアなどの説明を待たずとも明らかであり、そこには子供を取り巻く大人、市民の関わりも不可欠である。

また、乳幼児親子／保護者を取り巻く社会課題は、子どもの心身の健やかな発達を保証する環境の難しさ、虐待、妊産婦自殺、拍車のかかる少子高齢化対策など多岐に渡り、特にコロナ以降、一層深刻さを増している。また、SNS の普及と浸透は、コロナ禍と相まって、人々のコミュニケーションの質を大きく変えた。様々な課題はありつつも隣近所や自治会や子供会のような近隣コミュニティの機能、地縁のようなものの役割が変化し、ネット上での不確定な情報網の中で翻弄されるケースも多々生まれている。子育てを担う保護者は地域社会の中で孤立しがちで、ストレスを抱えても、それらを外に出したり、社会経験の豊かな近隣の人たちの中で子育てを分かち合うことも難しい。これらは子どもたちの心と身体の発達において、未曾有の影響を及ぼすと言われる。

「こども・子育ての現状と若者・子育て当事者の声・意識 令和5年1月19日 内閣官房こども家庭庁設立準備室」(chrome-extension://efaidnbnmnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_seisaku_kyouka/dail/siryou5.pdf) のなかで、フランス、ドイツ、スウェーデン、日本の比較では、「日本は子供を生み育てやすいと思う割合が他国に比べて低く、生み育てやすいと思わない」と回答した割合が61.1%と他国と比べて多数を占めている。自国はこどもを生み育てやすい国だと思ふ理由のうち、「地域で子育てを助けてもらえる」、「社会全体が理解がある」という点についても、日本は4国の中でもっとも低くなっている。子どもを持たない選択は様々であるが、産み育てにくい、という認識が高いことは象徴的である。

子育てが始まり、生活が大きく変化する保護者たちが、子育てをする仲間や地域の人と出会い、気づきや困難を分かち合う、さらに地域の大人たちが、共に楽しみ、乳幼児だけでなく子育て世代をも見守る。ベイベーシアターは今日の様々な課題への対応も可能である。

小金井市芸術文化振興計画においては、2021 年度より、0、1 歳児とその保護者を対象に「0,1 歳のための初めての芸術文化体験連続講座」を開催している。乳児とともに身近な場所で芸術文化に触れることで、日常の延長線上に芸術文化があることの大切さ、自分自身も表現者にも表現する場の作り手にもなれることへの理解を深める。

連続講座の中で、0歳から芸術文化に触れられること、0歳、1歳児を対象とした芸術文化作品があることを紹介し、そうした機会を創出することの大切さを体感できる機会としている。

1 実施概要

1) 「からだのことばでもっとおしゃべりしよう」

場所：宮地楽器ホール小ホール

講師：はらだまほ（振付家／パフォーマー）／松村拓海（音楽家）

対象：5月15日時点で0～24ヶ月のお子さんと保護者

参加費：全4回1,000円

日程：

第1回 6月5日（月）

第2回 6月26日（月）

第3回 7月7日（金）

第4回 8月7日（月）

※各回とも

- ・午前の部 10：30～11：00（原則として1歳児のお子さん）
- ・午後の部 14：00～14：30（原則として0歳児のお子さん）
- ・終了後、10～15分ほど楽器をさわってみたり、おしゃべりしたりする交流時間を設けた

2 事業趣旨（目的）

2023年度は「0,1歳と保護者のための芸術文化体験」として「からだのことばでもっとおしゃべりしよう」（全4回のワークショップ）を実施した。コロナ禍を経て、子育て環境や保護者のコミュニケーションのあり方が変わる中、乳幼児だけでなく、保護者も日常の生き難さや困難を時ほぐすきっかけとなることを目指した。

3 講師

はらだまほ 振付家／パフォーマー

立教大学現代心理学部映像身体学科卒。言語と身体の関係性を中心に「おどり」について多面的に思考し、動作から「おどり」になる瞬間や身体が踊り出す瞬間にこだわって作品を紡ぐ。ジャンルや世代を問わずパフォーマンス・振付・ワークショップなど多様な活動を展開している。2015年より乳児のための舞台芸術に積極的に取り組み、ダリア・アチン・セランダー（セルビア）、アリツィア・ルブザック（ポーランド）など海外の演出家の作品に多数出演。国内ツアーをはじめ、ポーランド公演やイタリア公演、北京公演に参加した。日常の中に、ふと気がつくとなりにあるような「おどり」を探している。

松村拓海

フルート奏者／作曲家 ギターやピアノ、サックスやクラリネットなども演奏するマルチプレイヤー。ソロやリーダーユニット”+81”の活動の他、テレビや映画音楽、CM 音楽やラジオジングル制作、レッスンやワークショップなどの活動にも力を注ぎ、即興演奏と絵画のコラボレーションや自作のコンピュータープログラムを使ったインスタレーション展示 "Trees" なども行っている。主な参加バンドと共演者は、Kenichiro Nishihara、菊地雅晃、菅原慎一、Gregg Green、港大尋、西尾賢、1983、Peno、俺はこんなもんじゃない、nariiki、黒岡オーケストラ、ソボブキ、Le gros tube など。

4 参加者数、内容

①開催状況、参加者数

プレワークショップ：5月10日（水） 10名

第1回 6月5日（月） 午前4人 午後6人

第2回 6月26日（月） 午前6人 午後6人

第3回 7月7日（金） 午前6人 午後6人

第4回 8月7日（月） 午前0人 午後4人

※各回とも

- ・午前の部 10：30～11：00（原則として1歳児のお子さん）
- ・午後の部 14：00～14：30（原則として0歳児のお子さん）
- ・終了後、10～15分ほど楽器をさわってみたり、おしゃべりしたの交流時間を設けた

②内容

0、1歳の子どもとその保護者の方がダンサーとミュージシャンに導かれ、からだを動かしてみる。講師のはらだまほさんの動きを真似したり、松村拓海さんの音楽に合わせて動いてみたり、その場での「からだのことば」を感じて動いてみる。言葉をつかわないコミュニケーションになり、遊びのヒントともなる。内容は以下の通りである。

ダンサーの動きを真似したり、ミュージシャンの奏でる音に合わせて動いてみたり、ゆったり体を動かしながら、お子さんと一緒に言葉ではない“ことば”でおしゃべりしてみる。

ゆらゆら……くるくる……とことこ……そろそろ……ぴょんぴょん……ぶらんぶらん

- ・まずは、からだを少しずつゆるゆるほぐしてみる
- ・講師の動きをそろそろ真似してみる

- ・お子さんをおひざに乗せてゆらゆらしてみる
- ・ミュージシャンの音楽に合わせてふわふわ動いてみる。からだのことばに耳を傾け、心地よい動きや音を探してみたり、ほんの少しゆったりした時間を過ごす。
- ・からだをほぐして、心も柔らかくほぐしてあげましょう。
- ・いつもと違う動きをするだけでも、リフレッシュとなる。

5 広報宣伝活動報告

市報 アートフル・アクション HP facebook、Twitter、Instagram

6 参加者の声

●アンケート 第1回：6月5日(月)

＜今日やってみて、特におもしろかったこと、びっくりしたこと、楽しかったこと、逆にとまどったこと、困ったことなど、感想を聞かせてください＞

- ・赤ちゃんを抱っこして動くのが楽しく、気持ちよかったです。
- ・木の実のような腕輪を付けて行った真似っこワークがとても面白かったです。
- ・体を使って対話するのが楽しかった。子どもが楽器を触って楽しんでいる姿も良かった。

＜お子さんの様子はいかがでしたか？ 気づいたことなどがあればお聞かせください＞

- ・抱っこされながら、いつもとは違う動きにニコニコ笑っていました。たまごのマラカスがお気に入りのようでした。
- ・私が様々な動きを体験している間、自由にギターや振る楽器を触らせてもらえ、とっても満足そうでした。本物のギターに1歳児が触らせてもらえるのは、本当に貴重な機会でした。
- ・子どもは何を感じたのか学びがあったのかは分かりませんが親はWS後色んな音が気になり面白いなと思いました。

＜その他、何かお気づきの点がございましたらお聞かせください＞

- ・最初に背中を床に付けて身体をほぐす動きをした時に、子どもは自由に動き回り、自分の身体に集中することができました。昨年度と同じようなワークショップを想像していましたが、最初に感じたその感覚が全く違い、それぞれに楽しむことができました。
- ・後半はたくさん動いて熱くなるぐらいでした。
- ・次回も楽しみにしています。
- ・子どもも何か楽器を使って身体が動かしたらよいなと思いました。身体表現が好きな5歳の上の子もとっても

楽しめる内容だなと思いました。

●アンケート 第2回：6月26日(月)

＜今日やってみて、特におもしろかったこと、びっくりしたこと、楽しかったこと、逆にとまどったこと、困ったことなど、感想を聞かせてください＞

- ・鏡の動きがとてもおもしろかったです。
- ・自分で動きを考える時は初めは少し戸惑いでしたが、今までに体験したことのない体験ができた。
- ・からだの動きで1対1でお話したのがおもしろかった。赤ちゃんともお家でやっています！
- ・ミニシアター、体の表現での対話が面白かったです。つい何の動きをしようか考えてしまいましたが、体で表現することはもっと自由に自然にできたらいいなあ、と思います。

＜お子さんの様子はいかがでしたか？ 気づいたことなどがあればお聞かせください＞

- ・初めてでしたので、子供は何をしたらいいかわからない様子もありました。
- ・広いところでたくさん動き、いろいろな楽器に触れて楽しそうにする姿を見ることができました。
- ・鈴の音が気に入って家でも楽しんでいます
- ・とても楽しそうでした。少しずつ慣れてきてるようにも思います。

＜その他、何かお気づきの点がございましたらお聞かせください＞

- ・本物の楽器に触れられたのはもちろん素敵だったのですが、もっと子供がダイナミックに扱える(投げたり、手足つつけて走ったりなど)音の出るものがあったら、子供も楽しめたのかな、とおもいました。

●アンケート 第3回：7月7日(金)

＜今日やってみて、特におもしろかったこと、びっくりしたこと、楽しかったこと、逆にとまどったこと、困ったことなど、感想を聞かせてください＞

- ・音に合わせて体を自由に動かすのが楽しかったし、子どもも目で追ってくれて嬉しかった。
- ・音に合わせて自由に身体を動かして歩き回ったことが心地よく、楽しかったです。
- ・私も楽器に触れながら音を楽しめたので楽しかったです。
- ・中学生の男の子たちの、小さい子どもたちに対する反応、またその逆で子どもたちの反応が見ていて楽しかったです。

*第3回は、職場体験活動中の小金井市立第二中学校の生徒2名がサポートスタッフとして参加した。

＜お子さんの様子はいかがでしたか？ 気づいたことなどがあればお聞かせください＞

- ・珍しい音がすると食いつくので、いろんな楽器に触れさせてあげたいと思った。
- ・音や動きに合わせて、子どもも手を伸ばしたり笑ったりしていて楽しんでいました。
- ・眠くてだめかなと心配していましたが、いろんな音や動きに大興奮で楽しそうでした。
- ・今回も楽器に興味深々の様子でした。毎回成長しているような、いつもと同じような…ですが、この経験を、いつか何かのタイミングで表現してくれることを楽しみにしたいと思います。

＜その他、何かお気づきの点がございましたらお聞かせください＞

- ・中学生のお2人も、最後の交流の時間いろいろお話してくれてとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・次回も楽しみにしています。よろしくお願いします。

●アンケート 第4回：8月7日(月)

＜申し込もうと思ったきっかけを簡単にお聞かせください＞

- ・子どもの興味のあるものに触れさせたかった 1名
- ・昨年度参加して、子どもがとても楽しそうだったから 1名
- ・友人からの紹介 1名

＜参加する前に予想していた内容と比べてどうでしたか＞

- ・やや予想通りだった 1名
- ・予想通りだった 1名
- ・やや予想と違っていた 1名

＜ワークショップに参加してみていかがでしたか＞

- ・大変満足した 2名
- ・満足した 1名

＜参加料はいかがでしたか＞

- 安い 2名
- やや安い 1名

＜ワークショップの回数はいかがでしたか＞

- ・ちょうど良い 3名

＜ワークショップの間隔はいかがでしたか＞

- ・ 2週間に1回程度が良い 1名
- ・ 1ヶ月に1回程度が良い 2名

＜参加しやすい開催日を教えてください。＞

- ・ 平日と土日いずれかなど、曜日が2種類ぐらいあるとよい 1名
- ・ 曜日固定がよい 1名
- ・ 曜日はバラバラでもよい 1名

＜ワークショップ1回の長さはいかがでしたか＞

- ・ ちょうどよい 3名

＜上記の質問でその他を選んだ方、また感想、ご意見等、何かありましたら自由にお書きください＞

- ・ 個人的にはまつんさんの楽器の音を聞きながら身体を動かす時間が好きでした。
- ・ とても楽しい時間でした。真似て踊ってみたり新しい体験でした。ありがとうございました。

2) ベイビーミニミニシアター「あしあとのおと」

1 開催状況、参加者数、内容

開催状況、参加者数

日時：2023年9月4日（月）

＜第1部＞ 10時 開演 10時半頃終演予定（13か月～24か月のお子さん対象）

＜第2部＞ 14時 開演 14時半頃終演予定（0～12か月のお子さん対象）

場所： 小金井 宮地楽器ホール 小ホール

参加費 親子1組 500円

定員 各回12組

内容

参加者数 午前の部10組、午後の部12組

年齢構成 4か月、6か月3名、7ヶ月、8か月、9ヶ月、10ヶ月2名、11ヶ月4名、12ヶ月、1歳2ヶ月、1歳3ヶ月、1歳4ヶ月、1歳6ヶ月、1歳10ヶ月、1歳11ヶ月2名、1歳9か月

内容 15分程度のベイビーシアター作品

0、1歳の子どもたちとその保護者のためにつくられた、音とおどりによる小さな小さな作品。ベイビーシアターとは、乳児とその保護者、妊婦を対象とした舞台芸術の一分野で、赤ちゃんの観る力、聴く力、感じる

力に働きかけ、その力を共に観る大人の人たちと分かち合う。

2 参加者の声

＜何でイベントを知りましたか＞（回答数の順）

市報 7 名

チラシ 5 名

講座参加者 3 名

その他 3 名

友人、知人の紹介

SNS（アーティストのまほさんの fb）

家族から知らされた

＜今日のベイベーミニミニシアターについて＞

すごく楽しかった 13 名

よくわからなかった 1 名

楽しかった 7 名

＜自由感想＞

- ・ 空間、空気感、音…とてもこちよかった。せっかくなので、もう少し長く楽しみたいなと思いました。
- ・ とてもすばらしかったです。赤ちゃんの反応全てが作品の中に反映されているのがすごいと思いました。空間の使い方もすてきで、その場にいるだけでいやされました。
- ・ あっという間の時間でした。思考が止まって、心地良かったです。もう少し長く味わいたかったです。
- ・ 楽しそうにおどっていて、見ていてなんだか楽しくなった。
- ・ あたたかくてやさしい光、音。小さい子どもたちが感じるままにすなおに自由に動きまわる姿を見て、なぜか涙がこみあげてきました。とても感動しました。
- ・ 参加者の方も道具を持たせてもらい、参加している感じが一体感があり良かったです。自由にハイハイしている子、まほさんを追いかけている子、みなさんを見ていて楽しかったです。我が子も一瞬まほさんの動きを真似していることがあり、よく観ているんだと思いました。フルートの音が聴こえてくるとそちらにくぎづけで、音楽はやはりすきなんだなと改めて思いました。
- ・ 連続講座で娘も雰囲気慣れていたせいか、場所見知りにも関わらず、私の元をはなれて楽しんでくれていました。連続——とまたプログラムが全く違って私も楽しめました。
- ・ 音のない空間で、くるみやすず、おどりの音に集中している様でした。自然に体が動いている様子がとてもお

もし良かったです。

- ・赤ちゃんが自由に動けて、色んな音に反応していて、楽しんでいる様子でした。
- ・子どもたちが場を開拓していくのがおもしろかった。音や空間、温度、人との距離感などがとても心地よくて、気持ちいいな…と感じた
- ・楽しかったです。心が豊かになった気がします。
- ・静かな音と踊りの世界でとてもいやされました。クルミやフルート、鈴の音など普段の生活では中々聞くことのない音を聞かせてあげられました。
- ・楽器や色々な音に触れることができ、よい経験をさせてあげられて良かったです。
- ・話、映像、音楽、芸、レクリエーション、コミュニケーション、その他……もう少しはつきりとしたエンターテインメントを期待していた。安い料金だからようがないと思うけど……。
- ・音のする方、動いている方が気になるような様子で見えていました。どの楽器をあたたかい音がする音でとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・赤ちゃんが自由に動き回っても良いのがたのしかったです。こんなに広いホールに来るのも初めてだったので、たくさんハイハイ出来て楽しそうでした！
- ・こどもと一緒に楽しめました。騒音が多い日常の中、静かな空間で音を楽しむのは新鮮で、心が優しくなる感覚でした♪ 0才児が楽しむのに丁度いい時間でした。
- ・赤ちゃん達がじっと集注してみいて、とてもよかったです。
- ・またこのホールで赤ちゃん、子供向けイベントを開催してほしい。
- ・いやされました。
- ・子どもが自由に動けるスタイルだったのでストレスなく楽しめてよかった
- ・色々な音が聞こえて、子どもが何だろう？と不思議そうに見ている姿が見れて良かったです。こういったパフォーマンスを私も初めて見たので、とても楽しめました。ありがとうございました。
- ・世界観が独特だった。もう少し長くてもよいと思った。

<今後、どんな企画に参加したいか>

- ・子供も楽しめて親もリラックスできるような今回の企画のようなものがあれば参加したいです。
- ・ベビーヨガ
- ・子どもと一緒に五感をつかって味わえ、子どもが自由に参加できる企画があつたらうれしいです。
- ・観る企画と楽器などに触れられる企画。まほさんと身体を動かせる企画など。
- ・また参加型のものがあれば参加したいです。音楽がもっと楽しめるといいなと思います。
- ・また参加したいです。
- ・町中に折り紙をたくさん吊るすや幼児のお絵描き教室とか興味があります。

- ・今回のような音の世界があれば色々参加したいです。
- ・子どもと一緒に鈴を鳴らしたり、体験をもっと取り入れた企画があると楽しそうと思います！
- ・赤ちゃんの発達にいいあそびを大人もまじって一緒にやるとか？
- ・赤ちゃんと一緒に参加できる企画はとてうれしくありがたいです。
- ・赤ちゃんと一緒に体操したり、今回のような音楽的なイベントならまた来たいです。
- ・子どもと一緒に楽しめる音楽イベントがたくさんあると嬉しいです。
- ・11、12月あたりにまたよければ聞いて頂きたいです。0才、1才の身より希望です。
- ・赤ちゃん、子供向けの音楽会、絵本よみかせ、ヨガ等
- ・大人も一緒に体を動かすなどのイベント
- ・ベビー向けのコンサートなどあれば参加したいです。
- ・ふかふかのマットであそぶ音楽あそび
- ・とにかく広い所でごろごろハイハイ自由にしたい。
- ・ホールを開放してほしい。

第1回ワークショップの様子。周りの音や動き、色に豊かな反応。



第2回ワークショップの様子。保護者の動きにつられて、真似てみる。真似は、世界を築く大きな一歩。





第3回ワークショップの様子。小金井市立第二中学校の生徒が職場体験の一環として参加した。参加者との対話だけでなく、子供の頃の思い出や音楽について、語ってくれた。



第3回ワークショップの様子。少しずつ慣れてきたのか、好奇心に任せてダンサーやミュージシャンに近寄ったり、触れたり。

「あしあとのあと」の様子。真似てみたり、音や他の人の動きに徐々に関心を示していく。



「あしあとのあと」の様子。驚いたり楽しんだり、心の様子がそのまま体や表情に現れる。



「あしあとのあと」の様子。一方的な観覧ではなく、観客も一緒に参加することが大きな特徴である。保護者が楽しんでいたりと、リラックスした時間を得ることは、子どもへの好影響となるだろう。





「あしあとのおと」の様子。安心感
は保護者同士のつながりや新しいコ
ミュニケーションのきっかけとなる。
見ず知らずの人たちでも、場を介し
て繋がりが生まれる。

4 地域内外の多くの 人々が参加できる 実践の場をつくる

えいちゃんくらぶ

これまであまり計画の対象としてとらえられてこなかった高齢世代の方々を対象とした事業は、高齢社会の進展とともに、より重要性を増している。6年目となる本年度は、特に、参加者の主体的な活動や、地域のネットワークづくり、若手のアーティストを交えた世代間交流の深化など、新しい高齢社会のビジョン形成に貢献している。

1 実施概要

実施期間：令和5年5月～6年3月

主な履行場所：

えいちゃんくらぶ：KOGANEI ART SPOT シャトー 2F

NPO 法人東京学芸大こども未来研究所 Codolabo studio

市民会館萌え木ホール・会議室 B

喫茶フロンティア 2F

えいちゃんふえす：KOGANEI ART SPOT シャトー 2F ギャラリー

えいちゃんオープンデー上映会：公民館貫井北分館

2 事業趣旨（目的、内容）

えいちゃんくらぶは、スマートフォンやデジタルカメラで映像を撮った経験はないが、「新しいことにチャレンジしたい」「地域の仲間を作りたい」というおおむね70歳以上の方々と、映像制作をはじめの一步から学び、映像に触れる・作る・遊ぶ活動としてスタートした。若手のサポートメンバーも参加し、「映像」「メモリー」「ちゃんぽん」をキーワードに、世代を超えて楽しく活動する、緩やかな地域のコミュニティを目指している。

6年目となる2023年度は、コロナ禍も抜け、新規参加者が増加。それに伴い技術的質問も増えたため技術部会の開催頻度を増やし、制作意欲に対応しつつ月次定例会における穏やかな雰囲気との両立を狙った。冒頭で今年度やりたい事を話し合い、参加者、講師、事務局で決定した。

- ①過去にフィルムやテープで撮影した地域や家族の映像をデジタル化し、後世に引き継ぎたい。そのために交流しながら編集技術を学びたい。
- ②長年取り組んでいる作品 DVD 制作を形にしたい。
- ③もっとオープンにして交流を増やしたい。映像をテーマにして色々な人と話してみたい。
- ④自分たちの手で映画の上映会を開催したい。
- ①②については技術サポートを増やし「えいちゃんふえす」や小金井 宮地楽器ホール（小金井市民交流センター

マルチパーパススペース D にて開催された芸術文化振興計画推進事業&推進フォーラム報告展示等での発表に繋げる事ができ、個人視点で記録・記憶された貴重な地域映像や制作過程を残すことができた。

③については、高齢世代と芸術文化や社会との関わりをテーマとした映像作品を制作したアーティストのピョートル・ブヤク氏がゲスト講師参加する機会を2回設けた。氏の映像作品を鑑賞しディスカッションを行った結果、世代間交流の課題、記憶や知識とその伝達、コミュニケーション、ケアに関する立場の違いによる齟齬についてなど対話内容が広がった。

④については、えいちゃんオープンデー『百姓の百の声』上映会イベントを開催した。企画立案、配給元との交渉、観覧者募集の告知活動、当日運営など全てにおいてメンバーが主体的に開催。当日は多数の参加者が集まり、上映後は市民交流の機会ともなった。

特に、若手のサポートメンバーの参加、ポーランドから来日している若手のアーティストとの交流、上映会の自主的な運営、実施など、これまでの蓄積を運営に生かし、自走する力を獲得してきている部分もある。

3 講師

角尾 宣信さん

和光大学准教授 敗戦後日本の風刺映画・喜劇映画を中心に研究を行っている。敗戦直後、占領期の日本社会では、戦時中までのイデオロギーを揶揄する風刺表現が、映画に限らず数多く見られた。ところが、朝鮮戦争を経て高度経済成長を迎える中で、こうした風刺表現はサラリーマンを中心とする喜劇の枠組へと包含されていく。このプロセスは、敗戦後の経済体制としての法人資本主義、政治体制としての象徴天皇制、両者の確立と並行したものである。経済と天皇制との連動、そこに生じる滑稽さの表象を、戦争および敗戦によってこの社会に刻まれた外傷に対する防衛として明らかにしていくことが、研究の中心的課題である。

また、2017年より、都内や近郊の介護施設にて、昔の映画や映像を通じて対話を行うプロジェクト「シルバーシネマパラダイス！」を実施してきた。2018年より、東京都小金井市を中心に、地域の高齢者の方々と自由な映像制作を行い、世代を超えた対話や地域の記録を育むプロジェクト「えいちゃんくらぶ（映像メモリーちゃんぽんくらぶ）」（主催：NPO法人アートフルアクション）を継続中。

4 開催状況

①参加者は以下の通りである。

メンバー 12 名、サポートメンバー 3 名

②実施状況

開催回、日付、場所、参加者数は以下の通りである。

技術部①	5月23日	シャトー 2F	参加者 8 名
第 1 回	6月18日	喫茶フロンティア 2F	参加者 11 名
技術部②	7月19日	シャトー 2F ギャラリー	参加者 6 名
第 2 部	7月30日	シャトー 2F	参加者 10 名
技術部③	8月15日	シャトー 2F	参加者 4 名
第 3 回	8月20日	市民会館萌え木ホール会議室 B	参加者 9 名 (うちオンライン参加 1 名・講師オンライン参加)
技術部④	9月23日	シャトー 2F	参加者 5 名
第 4 回	9月24日	シャトー 2F	参加者 9 名
告知活動	10月14日	シャトー 2F/ 市内チラシ配布	参加者 5 名 (他ゲスト 1 名)
技術部⑤	10月28日	シャトー 2F	3 名
第 5 回	10月29日	シャトー 2F	8 名 (他ゲスト 1 名)
上映準備	11月24日	公民館貫井北分館 (学習室 A+B)	参加者 3 名
第 6 回	11月26日	公民館貫井北分館 (学習室 A+B)	えいちゃんオープンデー『百姓の百の声』上映会 参加者 51 名 (メンバー 8 名・来場者 43 名)
技術部⑥	12月7日	シャトー 2F	参加者 3 名
第 7 回	12月17日	NPO 法人学芸大学こども未来研究所 Codolabo Studio	参加者 7 名
技術部⑦	1月22日	シャトー 2F	参加者 4 名
第 8 回	1月28日	シャトー 2F	参加者 5 名
第 9 回	2月12日	シャトー 2F	参加者 6 名
技術部⑧	2月29日	シャトー 2F	参加者 3 名
えいちゃんふえす 6	3月6日～10日		
第 10 回	3月31日	シャトー 2F	参加者 4 名

5 プログラム内容

通常の活動、技術部の他、参加者の主体的な運営参加により、活動の一環として以下の上映会を行った。

1) 〈えいちゃんオープンデー『百姓の百の声』上映会〉

日時：2023 年 11 月 26 日 (日) 13:00～17:00

上映 13:30～15:40、上映後対談 16:00-17:00

会場：公民館貫井北分館 (学習室 A+B)

費用：無料／事前申込（定員 50 名・多数抽選）

内容：

①映画上映

②上映後対談、質疑応答、交流

対談進行 角尾 宣信さん（えいちゃんくらぶ講師）

対談ゲスト 大兼久 由美さん（百姓の百の声・プロデューサー）

2) 〈えいちゃんふえす6 地域に記録の種を蒔く〉

活動を広く市民の皆さんと共有することを目的に、成果の発表並びに活動を広げるための告知を行なった。

〈えいちゃんふえす6 地域に記録の種を蒔く ステイトメント〉

武蔵小金井周辺在住の高齢者の方と映像を制作するワークショップ「えいちゃんくらぶ」も、無事に6年目を迎えることができました。本年度も新たな参加メンバーを迎え、またスタッフ側の更新等もあり、気分新たな活動となりました。

そして、コロナ禍が明けたこともあり、活動自体もよりアクティブに展開できました。上映企画では他県からもお客様がお越しになり活発な交流がありましたし、また創作活動も、地域を歩き、その歴史を掘り起したり、思索を深めたり、今の在り様や人々の関わりを鋭く切り取ったりと、貴重な作品群が生まれました。そして、コロナ禍の数年にわたり、ずっと試行錯誤を繰り返してきた作品も今回遂にお目見えするなど、メンバーの方々のエネルギーが沸き起こる一年でした。

映像は根本的に記録。どんな映像にも、創った人や創った場の記憶が刻まれています。メンバーの方々を通じて生み出された記録の種が、今年も地域に広々と撒かれますことを祈って。

ディレクション担当：角尾 宣信

日時：3月6日（水）～10日（日）12:00-18:00

3月9日のみ10:30-18:00

会場：小金井アートスポットシャトー 2F ギャラリー

費用：無料

内容：

①3月6日～10日 えいちゃんくらぶメンバーの作品上映

②3月9日「街の日常を撮ってみる ワンポイント映像講座」定員20名（先着順）

参加者とともに街の映像を撮影。“コガネイのイマの日常”を多視点で記録し、講師が即興編集。会期中の展示に繋げる。

6 入場者数

1) 〈えいちゃんオープンデー『百姓の百の声』上映会〉

51 名 (うちメンバー 8 名・来場者 43 名)

2) 一般公募参加者の居住エリア内訳:

市内 18 名／ほか山梨県・栃木県・東村山市・小平市・渋谷区・練馬区・中野区等。

参加動機: メンバーや知人からの紹介・11 名／チラシ・8 名／市報・3 名／SNS・3 名

● 〈えいちゃんふえす 6 〜地域に記録の種を蒔く〜〉

「ワインポイント映像講座」定員 20 名、参加 9 名 (うちメンバー 7 名・一般参加 2 名)

7 広報宣伝活動報告

〈えいちゃんオープンデー『百姓の百の声』上映会〉

市報 11 月 1 日号／アートフル・アクション HP／市内チラシ配布

〈えいちゃんふえす 6 〜地域に記録の種を蒔く〜〉

市報 3 月 1 日号／アートフル・アクション HP／市内チラシ配布

8 参加者の声

1) 〈えいちゃんオープンデー『百姓の百の声』上映会〉

- ・上映作品の選定・企画・広報・運営まですべてメンバーの発想と協力で、盛会とすることができました。
- ・プロデューサーの方に映画制作についての質問を直接できて勉強になった。
- ・作品中に登場された農家の方や遠方からいらした方もいて、様々な人と直接交流する事ができて大変よい機会だった。

2) 〈えいちゃんふえす 6 〜地域に記録の種を蒔く〜〉

- ・一つのまとまった形となって私たちの作った映像を見られることに感動した。
- ・もっと良い？作品を作れるようになりたい。
- ・(中央線高架切り替え前日の記録映像を見て) 鉄道の高架事業によって、こうも街の風景が変わるものかと驚きました。今見ている風景も一過性のものなのかもしれません。記録の大切さを感じました。
- ・とても貴重でなつかしい記録!
- ・(市民活動の様子まとめた映像作品を見て) コミュニティーの今を感じました。



いつものえいちゃんの賑やかな様子。



技術部。講師の一方向的サポートだけではなく、自然と参加者同士のサポートもうまれた。



みんなで企画・運営した上映会は満員御礼。臨時席を出すほどとなった。

ピヨとの交流①

独特な個性をもつアーティスト。日本語が通じなくても動じないいちゃんメンバーの安定感。腕のタトゥーの意味を知り感銘を受ける。



ピヨとの交流②

作品解説を聞き、ディスカッション。祖母とのリモート交流を題材とした映像作品から、世代間交流の課題、記憶や知識とその伝達、コミュニケーションやケアに関する立場の違いによる齟齬についてなどに話題は広がり、参加者自身も当事者としての深い対話となった。



講師とともに上映会告知チラシを配りながら市内をお散歩。





えいちゃんふえすに向けて作者コメント動画を収録。講師と運営による撮影方法では納得できず、メンバーが「私が全部やります!」と撮影・編集する展開に。結果は見事な出来。



えいちゃんふえすの様子。それぞれの映像作品を8スクリーンでテーマ分け上映。



武蔵小金井駅が地上にあった頃の貴重な記録映像。踏切があった時代を懐かしむ。

「街の日常を撮ってみる ワンポイント映像講座」。“コガネイのイマの日常”を、参加者とともに多視点で記録し、その場で即興展示に繋げた。



令和 5 (2023) 年度
小金井市芸術文化振興計画推進事業
「小金井アートフル・アクション！」
事業報告書

令和 6 年 3 月
委託者 小金井市

受託者 特定非営利活動法人アートフル・アクション